

ファッション
One Point
アドバイス

ショールで
おしゃれUP!

ノースリーブワンピースにショールを一枚羽織るだけで、おしゃれな装いに変身します。ショール一枚で秋を楽しめます。

ショールはオーガンジーのような透ける素材の大判のものを選びましょう。二つに折って二枚重ねて使えば、透ける素材でも、暖かさを感じます。自分は暖かいのに、見た目には重さを感じさせなくて、野暮ったさを感じさせないのが、この素材の特徴！少しお高い商品のもありますが、一年を通じて使えることを考えたら、そんなに高いお買い物でもないのではないのでしょうか。

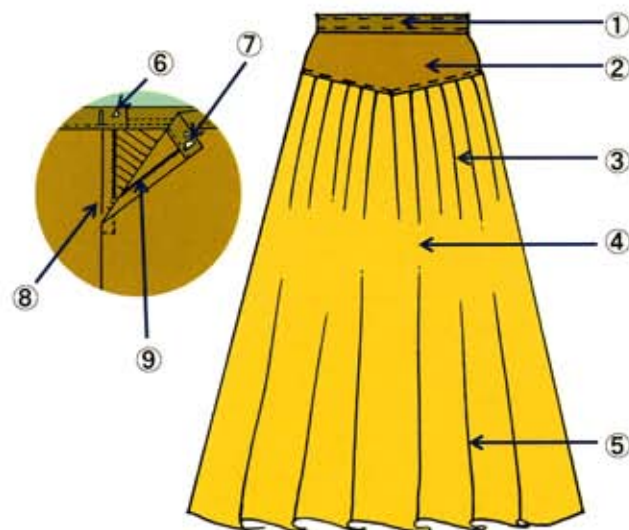
特にこの素材でしたら、最後のバーゲン商品としても出ているはず！一年を通して使える商品ならお買い得です。お目当てのショールがないか？百貨店回りしてみるのもいいですね。

また、二種類のショールを組み合わせるのもおしゃれ！二種類を羽織るので、一枚は透ける素材かレースもので、もう一枚は感触がよくて薄い素材のタイシルクのようなものと組み合わせてみるのはどうでしょうか？

最近では、アジアンティストが人気ですので、アジアンショップなどでテーブルクロスやインテリアクロスとして売られているものでもOKです。あなたのセンスしだいで、素敵なショールに早変わりするはずですよ。



スカート



フレアー(ヒダ)スカートは、生地をバイアス(斜め)にして裁断し、生地のゆがみを利用してふんわりとしたヒダを作ります。この図のように、シャープな形状がしっかりと維持されなければならないプリーツと、裾の生地のゆるみをヒダにするフレアーを同じ生地で加工することは実際には無理があります。この図はあくまでも名称をご紹介しますためのものです。①ウエストベルト(ウエストバンド) ②ヨーク(切り替え布)。③プリーツ ④前見頃 ⑤フレアー ⑥スナップ ⑦カギホック(ストロングカン) ⑧ファスナー開き ⑨ファスナー

(参考文献:『衣料品の見分け方』日本繊維協会刊他)

HD NEWS 2015年9月31日(隔月)発行 第11巻第5号通巻63号

暮らし応援ニュースレター

HOMEDRY NEWS

ホームドライニュース No. 63



ファッション・ワンポイント:ショールでおしゃれUP!

衣類のパーツの名称:スカート

繊維物語:ペイズリー柄の名はイギリスの町に由来

衣生活の知恵:毛100%でも新毛だけや再生毛混用もある

まごころクリーニング
ホームドライ
<http://homedry.or.tv/>



ペイズリー柄の名は イギリスの町に由来

ショールやワンピース、ネクタイなど誰でも1点は持っているようなペイズリー柄(Paisley pattern)の繊維製品。イタリアの高級ブランドであるエトロ(ETRO)の代表的なデザインとしても知られています。

勾玉(まがたま)のような特徴的な模様の起源については、菩提樹の葉であるとか松かさであるとか、いろいろな説があるようですが、このデザインを最初に発案した人に聞いてみなければ、本当のことはわからないようです。また発祥の地も、古代ペルシャ(イラン)という説もありますし、インドのカシ米尔地方という説もあります。日本語では、「松稷(しょうきゅう)模様」と呼ばれていますので、松かさの模様ということになるのでしょうか。その模様のようにミステリアスなイメージがあります。



©naldzgraphicsn

ペイズリーの語源を調べてみると、イランでもインドでもないイギリスのスコットランドにある人口7万人ほどの小さな町の名です。

ペイズリーは、19世紀末から100年ほどの間、紡績産業の町として繁栄しました。しかし、合成繊維の普及などによって繊維産業は衰退してしまいました。現在では、有名なスコッチウISKキーであるシーバスリーガルやロイヤルサリュートのボトリングを行うシーバス・ブラザーズ社があることが、ウISKキー通の間で知られています。

なぜ、スコットランドの町の名が、このミステリアスな模様の名前となったのかというと、19世紀にイギリスが統治していたインドから、カシ米尔地方で織られていたショールを兵士が持ち帰り、その魅力的な模様が広まったとされています。カシ米尔地方といえば、カシミヤの語源にもなった地域で、兵士が持ち帰ったショールは、おそらく最高級品といわれるパシュミナのショールではなかったかと思われます。

インドからもたらされたペイズリー柄は、スコットランドのペイズリーで生産される繊維製品にデザインされ、イギリスで大流行し、世界に広まったということです。

日本人の大好きなカレーライスも、インドからイギリスにわたり、イギリス海軍のメニューであったものが日本に伝わったと言われています。ペイズリー柄とカレーライスの伝わってきた経路は同じということになりますね。

(参考文献:『田中千代 服飾事典』同文書院刊)



毛100%でも
新毛だけのものや
再生毛混用もある



ウールの品質を保証する国際的な組織ザ・ウールマーク・カンパニーでは、認定したウール製品にウールマークを発行しています。このウールマークには3種類あります。

初めて繊維製品として使われる新毛(羊毛の他にカシミヤ等の獣毛も含みます)を99.7%以上使用(法定表示では97%以上は100%と表示できます)されているものには、純毛製品を意味する「ウールマーク」がつけられます。新毛が50%以上で、再生毛やポリエステルなどの異素材が50%未満混用されている製品には「ウールマークブレンド」マークがつけられ、新毛が30~50%で他繊維との混用製品には「ウールブレンド」マークがつけられます。*ウールマークは品質基準に合格した製品だけにつけられています。

毛100%と表示されている製品で、ブレンドマークがついているものは、再生毛を混用した製品です。再生毛は、一旦製品化された毛製品をほくして、繊維の状態に戻し、再度紡糸したもので、新毛よりも繊維長が短く、毛羽立ちやすく毛玉ができやすいという性質があります。過去に染められているので、一般に黒や濃紺などの濃色に染められています。